

壬生川地区タウンミーティング開催報告	
日時	令和3年12月14日（火）19：00～20：30
場所	壬生川公民館 2階大ホール
参加者	【地域側：15団体15名】壬生川地区連合自治会長（社会福祉協議会壬生川支部長）、壬生川小学校長、壬生川小学校PTA会長、壬生川愛護班会長、民生児童委員協議会壬生川地区会長、壬生川地区老人クラブ連合会長、西条地区防犯協会壬生川支部長、交通安全協会壬生川支部長、防災士連絡協議会壬生川地区協議会長、副会長、壬生川女性防災士代表副会長、明理川自治会長、大新田自治会長、茨の木自治会長、壬生川地区体育協会展長 【傍聴：1名】 【行政側：4名】市長、壬生川公民館長、危機管理監、建設部長
次第	1 開会 2 壬生川地区連合自治会長 挨拶 3 市長挨拶・事業説明 4 意見交換：テーマ①小学生の登下校時の安全 ②新川に関する防災 5 まとめ・閉会
概要	
連合自治会長挨拶	この会で西条市が抱える課題を地域の皆さんと市が共有し、共に考え話し合うことで、より魅力的で住みやすい愛着の持てる街づくりに繋がることでしょうか。壬生川地区の将来を考え、皆さんにざっくばらんにご意見をいただきますようお願い申し上げます。
市長事業説明	・コロナウイルス対策については、ワクチン接種の安全安心な環境整備と、市民生活を取り戻すため経済対策に重点を置く。 ・西条市の将来推計人口は30年間で約28%減少（2015年 108,174人 ⇒2045年 78,307人） ・人口減少対策として移住推進に力を入れており、みんなで「共創」して持続可能なまちを実現していきたい。
参加者の発言	市の発言及び対応
<p>&lt;交通安全対策について&gt; 壬生川小学校前の通学路は「ゾーン30」に指定されているが、スピードを出して走行する車両が多い。 以前には、道幅が狭いために通行車両の一部が下校途中の児童のカバンに接触し、そのはずみで児童が転倒する事故が発生した。 登下校時の子ども達を交通事故から守るための対応について話し合いたい。</p> <p>※「ゾーン30」：特定の区域（ゾーン）内に時速30km以下の速度規制をかけるもの。</p>	<p>児童が犠牲になった先般の事故を受けて、市独自の予算措置により、通学路の緊急安全対策を行っている。壬生川小学校周辺に「通学路注意」看板の設置や外側線等の引き直しをした。 スピードを出す車というのは、おそらく近隣住民以外の方が通勤時などに通り抜けているのだろう。ドライバーのマナー順守に加え、速度抑制を促す仕組みが必要である。 「ゾーン30」区域内にハンプ（※）を設置する場合は、騒音が発生するため、地元住民の皆さんのご協力をいただかなければならない。 例年「西条市通学路安全推進連絡協議会」において通学路の点検・危険箇所の対策を行っており、今後も引き続き地元の皆さんや警察、道路管理者等で協議を進めていく。</p> <p>※ハンプ：スピード抑制のために、道路の路面に設けられた凸部</p>
<p>狭い道路では、雨の日に傘をさすと道いっばいに広がり危険性が高まる。 そういった所にガタガタする路面の仕掛けや「通学路」「30km/h」の明確な表示があれば良い。 地域外の方が通っても通学路であること、「ゾーン30」の規制があることがわかるように対応をお願いする。</p>	<p>ハンプの設置は、児童・生徒の安全面では良いとされるかもしれないが、地元の皆さんにもご理解が必要である。 例えば茨城県取出市では、道路脇にポールを設置するなど、部分的に道幅を狭くすること（狭窄）で車の速度抑制を図る事例がある。離合しにくいような状態にすることで、周囲の交通に気を配るといった効果も考えられる。</p>
<p>スピードを抑制する段差（ハンプ）は、登下校時の安全面では良い方法だと思う。 普段の通行には支障を感じる人がいるかもしれないので、そのような場合の対策を考えていただきたい。</p>	

参加者の発言	市の発言及び対応
<p>&lt;交通安全対策について&gt; 子ども達が狭い道路を通ることに危険を感じている。 パトカーが巡回している時は、通行車両の速度が守られているように感じる。 警察が定期的に危険箇所を監視すれば、運転手も気を付けるのではないかと検討していただきたい。 横断歩道が消えかけていたり、白線が薄くなっていたりする場合はどこへ連絡したら良いか。 また、新しく横断歩道の設置を要望したい。</p>	<p>進入禁止道路に入っていく車も、警察が立つことで進入しなくなる等、確かに抑止力がある。地域の方と一緒に警察へお願いしたい。 皆さんから危険箇所を抽出してもらい、公民館あるいは協議会等の場で提出していただくことで対策を考えたい。</p> <p>白線の引き直しは市で行うが、横断歩道については警察へ依頼している。 横断歩道の設置は、地元警察が公安委員会に諮り総合的な判断により可否を決めるため、一定の時間を要すると考えられる。</p>
<p>&lt;舗装の段差改善について&gt; 県道で、アスファルト面が徐々に高くなり、道路のコンクリートとの間に段差が生じている。子ども達は段差を避け、車道側を歩き危険である。 壬生川校区外の道路でも10cm以上の段差がある所は、子ども達が車道側を歩くため、車両が走行していると動けなくなってしまう。 舗装整備時は、アスファルトを積み重ねるだけでなく、下を剥いで平らにしてほしい。</p>	<p>新たに舗装を重ねるオーバーレイ工法による補修を繰り返すことで、道端に段差が生じ、周辺より地面が高くなっている状態だと思われる。 舗装を剥く方が費用が高くなるため、この工法を採用していると考えられる。 なるべく段差を解消することを県に要望するとともに、市道でも同様のことが起きないように注意したい。</p>
<p>&lt;見守り活動について&gt; 通学路には歩道がない所や、信号機のない横断歩道を渡ることがあるので、車が停車してから横断するよう児童に指導している。保護者や安全ボランティアの方々による集団登校での見守り活動もあり事故防止に繋がっている。 ただ、下校時間は学年や曜日によって変わり、放課後活動により17時を過ぎることもあるので、下校時の見守りはできていない。 低学年児童は、学級担任が学校周辺の通学路まで引率しているが、各家庭までは目が届かない状況である。</p>	<p>保護者に加え、地元の方に見守りをさせていただき非常にありがたい。一方で、下校時は見守りが減ってしまう現状がある。 アイデアの一つとして例えば、地域の高齢者の方々に学校から児童の自宅付近まで見守りながら歩いてもらうのはどうか。市では歩くことでポイントを貯めながら、気軽に運動を始めるきっかけとして「わくわく健康ポイント」事業など健康のためのウォーキングを推奨している。 健康に繋がる上に、ボランティアで子ども達の安全が守られ、不審者対策にもなる。そのような提案も考えられる。</p>
<p>&lt;児童の安全な登下校について&gt; 交通事故防止だけでなく、下校時の不審者対策についても学校で再三の指導や各家庭への啓発を重ねている。 以前、下校中の女兒が一人になった時を狙われ、不審者に声をかけられたという事案があった。 下校時の不審者対応のほか、災害発生時に子どもの命を守るための対応についても話し合いたい。</p>	<p>不審者対応には迅速さが必要。登下校時は、通学路に接する地域の皆さんと連携する必要がある。 何かあった時に逃げ込める「まもるくんの家」があり、学校や地域の関係者と協議しながら安全な場所を確保していくのも一つの策である。 また、カメラ付防犯灯50基を寄贈いただいております。公共施設等で暗くて危険と思われる場所に設置し、対策を強化していく。</p>
<p>&lt;新川の防災対策について&gt; 近年の異常気象で豪雨被害が激甚化している。校区内には新川や大曲川が流れており、豪雨の際は道路が何箇所も冠水し、通行止めで避難場所に行くのも苦労する。 特に新川は地域の中心部にあり、円海寺公園付近では流れが急であるため、地元住民は氾濫に対し強い危機感を持っている。堆積土砂も要因の一つだと思うが、実際に決壊したこともあるので、線状降水帯等が発生すると不安である。 周桑病院裏の曲がり角付近には、灌漑用地のために水を抜く所や土手が下がっている場所もあり、このような危険箇所を市が確認し、原因を把握する必要があるのではないかと。 また、実施中の圃場整備は、水路の整備も行われ流れる水量が増えると想定されるが、市は対応をどのように考えているのか。</p>	<p>道路整備や宅地化に伴いアスファルトとなり、雨水が吸収しにくくなった。また、近年は雨の降り方や量が変化しており、更に大きな災害を想定しなければならない。 県では毎年新川の堤防点検をし（今年度は12月から1月予定）、不具合があれば速やかに修繕を行うと聞いている。川の堆積土砂は以前から問題に挙がっているが、県は全体を見ながら優先順位をつけて順次対応している。また、市では公民館周辺の浸水被害を軽減するために、市道北条新地線へバイパス水路を115mを整備した（令和元年度）。 市・県が一緒になって、予防を考えておく必要がある。そして、市民の皆さんにも共有していく。 川の取水口がある所、堤防が切れそうな所など地域の皆さんがご存じのことを教えていただきながら市職員が現地を一緒に歩き、そこに県の職員も加わってもらうような機会を設けたい。</p>

参加者の発言	市の発言及び対応
<p>&lt;新川の防災対策について&gt;  県や市による新川の氾濫想定では、どこが決壊し  どういう水流になるか等を教えていただきたい。  また、新川が決壊した場合の情報取得手段や具体  的な避難行動など、住民がどのような対策をすれば  良いか話し合いたい。</p>	<p>新川の「河川洪水氾濫危険区域図」を作成してい  る。各自が家庭、勤務先、学校等で安全に避難でき  る場所を確認するなど、活用していただきたい。  自助の部分では、普段から安全な場所や避難場所  （浸水時には高い所）を家族で確認しておくこと、  出先でも連絡が取れる体制づくり、備蓄物資等の管  理をお願いしたい。なお、安全な場所は市が指定す  る施設だけでなく、例えば知人の家や地域の集会所  なども含めて認識していただきたい。  特に風水害は事前の予測がある程度できるので、  早めの避難ができるよう呼びかけている。「安全・  安心情報お届けメール」、アプリ「防災情報さい  じょう」により防災情報等を配信しているので、活  用していただきたい。  共助の部分では、自主防災組織結成時の防災機材  の貸与（30万円相当）や訓練等活動費の補助金交付  がある。地域の中でどのような水害リスクがあるか  事前の準備を考える「タイムライン」（災害発生時  の避難行動計画）作成を推進している。地域の皆さ  んや防災士、行政が加わって、助かる命を確実に助  ける仕組みを作ってもらいたい。  壬生川では校区自主防災組織が作成した防災計画  があるので、校区の特性を今一度確認し計画を更新  しながら、避難訓練にも応用することが望ましい。  危険意識を行動に移すべく、新川決壊を想定した  訓練をし、近くにお住まいの方と協力し合うのも良  いと思う。必ずしも地区に捉われず、例えば上流・  下流沿いに住む方々での合同訓練等も考えられる。</p>
<p>&lt;防災マップ、洪水ハザードマップについて&gt;  市の防災マップは、いつ全地域分が完成するの  か。  以前、広報紙と一緒にもらったが、新川から大明  神川の辺りが真っ白であり、未完成なのか、それと  も安全だということかお伺いしたい。</p>	<p>市が作成している洪水ハザードマップは、加茂川  と中山川、渦井川の3河川である。県が公表した3河  川の浸水想定をもとに、市が避難場所などの施設を  地図上に表示している。  新川を含め指定されていない中小河川（15河川）  については、市が「浸水想定区域図」を作成し、  ホームページに掲載している。浸水した場合の水深  ランクを色分けで示し、ハザードマップ同様に作成  している。</p>
<p>&lt;新川の氾濫について&gt;  令和3年8月の大雨時、新川が氾濫しそうだったの  で、市の危機管理課に連絡したところ、港湾河川課  に回り、そこから県に連絡するように言われた。  県の担当者は、雨が止んでからでないに対応でき  ないとのことだった。しかし、結果的には市がコー  ンを立ててくれていた。市職員も、気になって現地  確認したのではないと思う。  県と市の対応の領域を教えてください。</p>	<p>市に連絡していただければ対応する。最終的な復  旧対応は県だが、市も現場を確認し、危険性や緊急  性があれば、応急対応している。  個々の事案により担当部局が異なるが、危機管理  課が電話応対することが多いので、いただいた情報  を担当に伝達すること、また通報者へも担当の連絡  先をお伝えすることを徹底していく。  初期の対応が悪く、申し訳なかった。</p>
<p>&lt;市指定避難場所、避難所について&gt;  市が避難場所を指定するということが、洪水等  発生時に、具体的にどういう所をどのように市民へ  周知するのか。  西条校区の産業道路近辺は高層マンションが多く  建っており、いざという時にマンションへ避難でき  るよう協定を結んでいると聞いた。  壬生川校区には高い建物がない。防災の啓発をす  る中で「どこに逃げるのか」という声を多く聞く。  もちろん自分で逃げる場所を決めることが基本だ  が、市が場所の選択肢を提示していただけないか。  または、この地区にはないことも知らせてもらえる  のか。</p>	<p>「避難場所」は、命を守るために緊急的に逃げる  場所。「避難所」は災害発生により家に帰れなかつ  た場合に生活する所としている。  現在、市の防災計画では主に公共施設を避難所・  避難場所に指定している。ただし、例えば高層マン  ションに住む人は洪水時に逃げる必要はない、とい  う考え方であるため、自宅に浸水被害がなければ避  難場所へは行かず、浸水しても上の階に逃げるこ  とができる。  その他、知り合いの家を頼ったり、車で高い所へ  逃げたりする方法もある。  市では高いビルやマンションを「津波避難ビル」  に指定しており、旧東予市エリアでは多賀地区にあ  るホテルと交渉中である。</p>

参加者の発言	市の発言及び対応
<p>&lt;避難場所、避難所について&gt;  ホームページに掲載されている壬生川校区の「津波避難ビル」は壬生川小学校と平安祭典西条西セレモニー会館のみである。他にはないか。  また、お年寄り達が避難するにはどうしたら良いのか。</p>	<p>地域の方々と行政が一緒になって考えていかねばならない。国でも防災におけるソフト面の対策を働きかけている。  前述のとおり自助・共助の仕組みづくり（タイムラインの作成、防災計画の更新、地図を用いた話し合い、避難訓練など）を推進し、地域の中で支援が必要な方も含めて確認していただきたい。  校区内の「3階以上の建物」という条件には、小学校横のマンションや周桑病院も該当する。今後、周桑病院敷地への交渉も考えていくが、まずは早く逃げることを徹底してほしい。</p>
<p>まとめ</p>	<p>&lt;市長&gt;  道路の他に、老朽空き家が多いことも聞いており、行政に課せられた課題は今まで以上に多いと認識している。丁寧に対応しながら、一方的に情報を出すだけでなく、相互に情報交換をしていきたい。市民の皆さんと行政の情報伝達がうまくいかず被害を生んではいけないので、我々からしっかり情報発信、また皆さんからも市に情報共有、ご提言をお願いしたい。  &lt;連合自治会長&gt;  本日の課題について、市の現状や課題、取組みを皆で話し合えたことは有意義だった。今後の市政への反映を期待している。自治会も市と連携しながら皆さんの様々な取組みを後押しできるよう励んでまいりますので、行政にもより一層の協力をお願いしたい。</p>

<当日の様子>

